

季刊紙

Vol.7

安川健人

Think Globally,
Act Locally

「地球規模で考え
地域から行動する」
横須賀から日本を変えていこう！



安川健人 (やすかわ けんと)

神奈川維新の会 副代表
会派 日本維新の会 団長
環境教育常任委員会委員
スポーツ振興検討協議会委員
議会基本条例検証特別委員会委員
議会制度検討会議オプザーバー
浦賀在住 家族は妻と猫♀
明治大学大学院修了 (公共政策修士)
元・鎌倉市議会議員 俳優/シェフ
愛車はハーレー、趣味はボディビル
BBQ 料理、ウクレレ、シーカヤック

12月定例議会で一般質問を行いました

海洋都市横須賀のプラスチックごみの現状について

横須賀市は東側は東京湾、西側は相模湾に面した広大な海に囲まれており、これは市の大きな魅力であると同時に特徴でもあります。

本市では海洋都市構想の実現に向けて「海洋プラスチックごみ対策アクション宣言」を表明してクリーンアップ活動等を行なっています。

しかし、横須賀観光の玄関口ともいえるヴェルニー公園とコースカベイサイドに囲まれた横須賀本港の護岸には、毎年北風の吹く秋から春にかけて海洋ごみが吹き溜まり大量に漂着し、その景観を悲しいほど損ねていますので、この問題について質問しました。

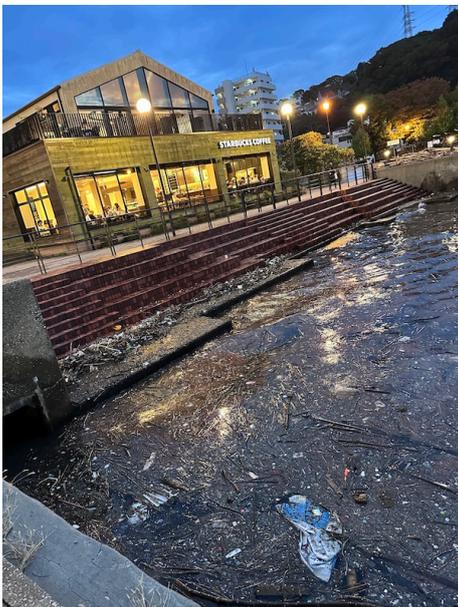
上地市長も「議員時代から本当に恥ずかしくて、どうしようもない気持ちで怒りすら感じている」とこの問題に対して強い危機感を表明されました。

海洋ごみの約70%がプラスチックごみであり、このまま放置すれば2050年には海洋中のプラスチックごみの量が魚を上回る可能性がある」と専門家も警告しています。

この現状に鑑み、「横須賀本港護岸の漂着ごみをゼロにする必要性」について質問を行いました。

市長は「現在でも週5日間の清掃活動を実施しているものの、漂着ごみを完全に取除くことは難しい」とした上で、「護岸の所有者である企業をはじめとする関係者と連携し、さまざまなアイデアを出し合いながら効果的な漂着ごみ対策を検討していきたい」との答弁を頂きました。

行政や企業だけでなく、一人ひとりのゴミを減らす意識や行動が海の未来を守ることに繋がります。横須賀の美しい海を守るために、みなさんのご理解とご協力を宜しくお願い致します。



* 湘南国際村（横須賀市内）にインターナショナルスクール

私の市議会議員としての公約の一つが、横須賀の開国の歴史や米海軍基地のある街の特徴を生かした『英語がしゃべれるまちづくり』です。英語が国際共通語としてグローバル化している中で、世界 111 国の中で日本の英語能力は 80 位。横須賀から世界で活躍する人材が育つ環境をつくる為に、英語がしゃべれるまちづくりを進めていくことが、他市との差別化となり、横須賀市の魅力アップにつながると考えています。

一昨年の 9 月定例議会では湘南国際村へのインターナショナルスクールの誘致について質問しました。上地市長からは「民間企業との連携、調整、機運が合致した中で行われるもの」「インターナショナルスクールに関した問い合わせもある」「可能性を探っていきたい」という趣旨の答弁を頂きました。

昨年の 6 月に神奈川県で湘南国際村 BC 地区（横須賀市内）の利活用事業者募集が始まったので、祈るような気持ちで注目していました。



(イメージ図 神奈川県 HP より)

そしてこのたび、日本を代表するインターナショナルスクールを設立するという事業者が優先交渉権者となりました。4 歳から 14 歳（中学三年）まで一貫のインターナショナルスクール「秋谷葉山国際学園」（仮称）が 2027 年 8 月の開校を予定しています。隣接した「めぐりの森」では環境配慮型農園を運営するなど、今後の展開が本当に楽しみです。選定評価委員からは「交流人口の増加など地元への効果が期待できる」との評価もあり、横須賀市の西地区に注目が集まってきそうです。

* 三笠公園 2026 年度中にリニューアルオープンを目指す！

世界三大記念艦の一つ「戦艦三笠」が復元保存されている横須賀を代表する公園の一つである三笠公園。大規模改修工事が行われてから 30 年が経過し老朽化が進んだ為、市では多目的な活用を意識しつつ民間連携を軸としたリニューアルを検討。集客・交流拠点機能拡充事業の事業者を公募・選定し、事業者が決定し、2026 年度中にリニューアルオープンを予定しています。



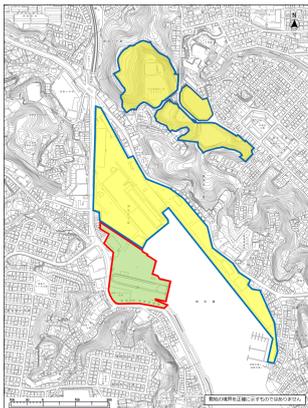
(イメージ図 横須賀市 HP より)

公園内を 4 つのゾーンに分けて、①エントランスゾーン：周辺施設との連携を生み出す開放的な空間 ②中央広場ゾーン：ゆとりのある大規模イベント空間 ③海辺景観ゾーン：憩いの場やアクティビティを提供する空間 ④多目的賑わいゾーン：大屋根広場や野外ステージ

音楽・アーバンスポーツなどの横須賀が力を入れているカルチャーを尊重し、日常利用から年間 100 回以上の多種多様なイベントを開催。横須賀の魅力を創造・発信する拠点-YOKOSUKA“WA”PARK-人がつながり、心をつなぎ、未来を創る“WA”が広がる公園がコンセプト。

* 浦賀ドック跡（浦賀駅前周辺地区）再開発プロジェクトが始動します

2003 年に閉鎖されて 20 年が経過した住友重機械工業株式会社浦賀工場（通称:浦賀ドック）。駅前から東西に浦賀湾を囲む 10 万平方メートル近い広大なスペースが今後どのように活用されるのか？ 2023 年の 9 月定例議会で一般質問を行いました。



市長からは、持ち主である住友重機械工業株式会社との良好な関係性を築けており、「近いうちに跡地の開発の方向性を示せるように協議を進めている」という趣旨の答弁がありました。そして、いよいよ 2024 年 11 月末からパートナー事業者の公募が始まりました。ペリーが黒船で来航した開国のまち浦賀から「第二の開国」をコンセプトに掲げ、「海洋都市・横須賀」の未来を見据えた横須賀市内でも最大規模の都市開発プロジェクトとなります。

浦賀湾という立地特性を最大限に活かし、ウォーターフロントとしての魅力を引き出す取り組みとしてマリンスポーツやアクティビティの導入、またオープンスペースの設置やイベントの実施により、市民や観光客が集い、交流できる環境の提供が期待されています。今年の 7 月頃には事業者が決定し、その後、三者協定が締結されて、工事着工は 2027 年以降から始まるスケジュールが予定されています。

編集後記 ～2025 年を横須賀の新たな発展の年へ～

今年の 3 月 1 日には横須賀市立総合医療センターが開院します。市立うわまち病院の移転建て替えとして、京急久里浜駅から徒歩 7 分の神明町に三浦半島初の屋上ヘリポートを備え大規模災害時に拠点となる大きな病院となります。その他にも田浦月見台のリノベーション、追浜駅前・横須賀中央駅前開発など様々なプロジェクトが進行中です。

本年も横須賀市で暮らす皆様にとって素晴らしい年になりますように心より祈念いたします。



横須賀市立総合医療センター



ホームページ
QR コード